



第136号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会長 竹前 稀市
編集人 会誌会報編集委員長 勝山 一男
印刷所 須坂新聞社

回顧と課題

上高井教育会副会長 坂上方一

上高井教育会の活動の中核の一つである研究委員会は、平成元年度から新しい研究年次に入った。テーマは「子どもがねばり強く自己形成していくための指導のあり方」で継続ではあるが、中心講師三枝孝弘先生の理論を各現場に生かしつつ重点として、

一、研究課題を明確にして、焦点化された仮説に基づいて実証する。
二、一時間の授業を中心に一般化を図り、各校の授業実践を高める。
を揚げ、元年度にふさわしく、実証授業の会場校の決定については、各校の主体性に期待し、二月に希望校を募りそれを優先させる。そして研究をより深めるために同一校で二回連続して実証授業を行って

その中心をなすものが「心の教育の充実」である。
新指導要領が告示され、道徳、特別活動は平成二年度から実施に移され、新設された小学校の生活科を含めて他の教科は、新指導要領の趣旨を生かしつつ順次移行措置がとられるようになった。
新指導要領第一の重点として出されたのが、発達段階に応じ、「豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成」であり、いわゆる「心の教育の充実」を大きく掲げている。

この一年生の文の中に、思いやり、感謝、生命への畏敬、美への憧れ、自律自制、強い意志等、「心の教育」でねらう中味が素朴な形で表現されている。これらは、とりもなおさず大多数の人々が願っているねらいであり、新指導要領のねらう最大のポイントではなからうか。
具現の場は、勿論、全領域全教科であるが、特に、道徳教育、同和教育の充実とねば

り強く自己形成していくための授業内容の弾力化と個性を生かす教育課程の編成と展開が望まれている。
上高井教育を立てるために 会員一人ひとりの研鑽への努力と連帯が一層望まれる次第である。(小山小)

上高井教育会だより

- 1. 12 研究委員会世話係委員長会(2)
- 20 第42回県女教師研究大会 会場 駒ヶ根市総合文化センター及び赤穂公民館
- 23 同好会世話係会長会(2)
- 5 第8回常任委員会
- 8 第9回代議員会
- 16 上高井教育会報第136号発行
- 17 第9回常任委員会
- 26 第10回代議員会・委嘱委員会事業報告
- 15 上高井教育会誌第46号発行

郷土の文化財 92

日和山神社の大幟

中野市・草間



高井鴻山が74歳の時に揮翰したといわれる作品である。
「養壽符関萬歳」
「揮翰勅参辰」
と記されている。

読み方は「寿を養って萬歳を符し、翰を揮いて参辰を動かす」と読む。
意味は、養生し長生きすることによって手紙を交わし参辰と逢うことができる、といった意味である。(参辰は日・月・星にめぐったに逢うことのできない意)

大きさは各々、縦が八・三メートル、幅が〇・九メートルである。(中嶋)

本年度の実践を振り返って

本年度も残り少ない日となりました。各校では一年間の教育実践をふりかえり反省、まとめの学期をむかえておられることでしょうか。ここに4名の先生方に貴重な教育研究をお寄せいただきました。ともども味わいながらこの1年間を省みたいものです

技術・家庭科の実践を

振り返って

湯田 博

早いもので、本郡に赴任し、二年が過ぎようとしています。今でも変わらず、驚き、見習うべきと思っていることが二つあります。その一つと言うのは、私のまわりにおられる先生方、そして知り合うことのできた諸先生方の教師としての姿勢です。日々教育活動への情熱とあたり前のこと（やるべきこと）を、きちんとやり遂げていらっしゃる教師の姿勢をまのあたりにして、本当に、自戒の念にかられました。生徒たちのために全力投球されておられることを、誇りにしていらっしやるに違いありません。

二つ目は、そんな先生方で構成されている研究小委員会や教科研究会（郡研）での研究に感動しました。技術・家庭科という教科性もあるでしょうが、特に『題材選定』『題材研究』に傾ける熱意たるものは、どう表現したらいいか迷うほどです。そして仲間入りをさせてもらい、昨年は那研の研究授業をもたせて頂きました。「生徒ひとりひとりを生かす題材の選定と指導のあり方はどうあったらよいか」というテーマに基づき木材加工領域での題材研究を中心に、板材(素材)を使って、生徒一人ひとりが製作す

楽しい音楽の

授業をめざして

「音楽なんて嫌だなア。」 昨年の子どもの声です。内心は（音楽の研究授業をしなくてはいけなのになんか困った）と思いつつも、とにかく子ども達に音楽を好きになってもらえようという努力をしていこうと思えました。

どうすれば音楽の授業が楽しくなるかということを追究してきましたが『楽しさ』に振り回され、流行歌を授業に取り入れた事もありました。

一生懸命に練習していましたが、そんな一面を見て、R児の音楽嫌いの理由を探ってみました。いろいろ考えたのですが、曲がうまく歌えないこと、曲に関心がわかないこと、自由な表現ができないことが原因ではないかと考えました。R児は大変几帳面な性格で何でもよく努力する子です。しかし発声に問題があり、フアより高い声が出ず、かすれてしまふのです。それがR児にとって納得がいらず、歌うことが苦痛になってしまっていたのでしよう。また、曲を知りたくも、聞いて覚えることが多かったようでも、やらされていくという意識もあったようです。

そこで感じたのが、基礎力の大切さです。正しい発声、音程感、リズム感、読譜力が身に付いていけば、自力で曲を追いかけることができたり、気持ち良く歌ったりできるのではないかと考えるのです。基礎力を身に付けることは簡単なようでも、決して簡単なものではありません。単純な繰り返しの練習になってしまったり、きつとR児は音楽から更に離れてしまふでしょう。「できる」という手答えを与えられるようなリズム遊びのドリルを作ったり、曲に合わせてリズム創作を行ったりすることから始めました。同時に発声方法の練習もしました。ビデオで歌っている顔を見たりもしてみました。そして少しでも良い声が出たらささずほめるようにしました。

中山 恭子

物珍しさで最初のうちは大喜びで歌っていましたが、結局その曲のみのエネルギーで、他の曲へなかなかなかつながらませんでした。R児は音楽嫌いの中の一人で、授業になると外の景色を見たり鉛筆をいじったりしてつまらなそうな顔をしていました。歌うことが最も嫌いなようです。口は全く動かないのです。しかしこんなR児もリコーダーだけは興味を持ち、

曲の追究は、曲との出会わせ方に重点を置き、歌詞から導入したり、編曲した表現を聞くことから始めたり工夫してみました。曲を気に入ることが大切なのです。追究も個人で楽譜を読み、音を確認しながら、とにかく自力で仕上げることを目指しました。

自分たちで譜を読み曲を仕上げることは、特に男子にとって効果的だったような気がします。数名で協力して、リコーダーで音をとったり、拍手をとったりして、できなければ「ここができない」と聞きに来るようになり、人前でも進んで発表するようになりました。最近の音楽の授業で『冬の歌』を全員で歌った時、R児の声が聞こえてきたのが、何よりの喜びです。

本研究を進めるに当たっては、多くの先生方に援助していただきました。素晴らしい勉強の機会を与えていただいたことに感謝しています。

(日野小)



学級指導でそうじを取り上げるのは、そうじがうまくいっていないからである。したがって「おまえたちのそうじはこんなに悪いぞ！」という言葉を、子ども自身に感じさせるような方法で授業をしながら進める。当然、暗い授業になる。

何とか明るい学指をしたいと思った。「まじめにやれ。」と言わないで、まじめにやらせたかった。大切なことは次の点である。

指導を 指指を 楽しい清掃 明るい学指 めざして

岸田幸弘

「俺たちはそうじが上手になったなあ。」と、子どもにも思わせること。

結果として向上的に変容したことを自覚させることである。では、どうするか。

その一 「ゴミの研究」

毎日の教室のゴミを袋に入れおき、それを班ごとに一日分ずつ配り、観察させた。「きたねー。」「髪の毛がなんでこんなにあるんだ。」「砂は誰が入れたんだ？」と、驚きの声がそこぞう言った。「これから

君たちにそうじ博士になってもらいます。ゴミ調べだけじゃなくて、どうしたらきれいにしかも早くそうじができるか研究するのです。」

その二 仲間のそうじを見る

新しい分担になって一週間後、そうじの悩みを話し合った。(けっして「問題点」は言わない)その中で最も悩みの多そうな班にそうじをしてもらった。他の班はそれを見学した。見学する観点や子どもも考えさせることで、やる方も見る方も真剣になった。

その三 用具の使い方を教える

ぞうきんのしぼりかたは四つのパターンがあった。正しい方法をやってみせて、良さを実感させた。

「バケツのまわりにある溝は何のためか。」と発問し、バケツの機能と、入れる水の量を考えさせた。また「バケツはどこに置いたらよいか。」と問い、最も効果的にそうじのできる置き場所を考えさせた。これは、手順を考えることと関連するので、子どもたちはよく追究した。

その四 ゴミをくわいてみる

ゴミを観察しながら「そうじをしないとうどうなるかな。」と言った子どもの疑問を取り上げ、一週間そうじをやめた。これは根くらべであった。しかし得たものは多い。髪の毛が3256本もあるとか、わ

たばこりや砂など、しかたのない汚れもあることを知った。さて、大切な点は、ゴミ・用具・手順などについて、研究的な視点を子どもたちに与えることである。そして、向上的な変容を認め、ほめることである。(小山小)

英語科の実践を 振り返って

太田研壹

「生徒ひとりひとりが意欲的に英語学習に参加するための指導はどのようにしたらよいか」をテーマに特にインタビュー形式の対話活動を通じて一年間追究してきた。英語学習の実態は基本的な問答が十分に身についておらず、恥ずかしがりや、間違いを恐れたりして、意欲的に英語を聞き話そうとすることに抵抗を持つ生徒が多い。授業内容の理解が不十分のままで、家庭学習も思うようにできず、学年が進むにつれて文の構造も複雑になり、語いも増え学

- (1)あまり興味がなく授業への集中力が欠ける。(2)目立ちたがり屋で授業中に他のことを言う。(3)既習の事項をうまく使えない。(4)言いたいことや聞きたいことを自分一人ではなかなか言えず自信なさそうに小さな声で話す。(5)発音やイントネーションが平板になりやすい。このようなN生に(1)ミスを恐れずに対話活動に取り組み、意欲を持って学習できるJETやAET、級友の英語に真剣に耳を傾け、話された英語が理解でき、英語の質問に自信を持って反応できる。(3)学校で学習したこと家庭で復習する習慣をつける。(4)いろいろな人と対話することから人間関係を深めあうことができるようになって欲しいと考えた。
 - その結果、N生は次のような点が見られるようになってきた。(1)LLを使ったペアワークで
- 「あしたの空に白銀の山は輝く」と校歌の冒頭の言葉どおり、標高五九〇呎の学校から西を望めば、早朝の冬空に連なる北アルプスの峯々が朝陽に映えて雄大ななかに清澄な美しさを醸し出している。
- 二節は川の流れを詠っている。学校の付近を流れる奈良川は激流でも溪谷でもないが、夏日炎熱の日などひっそりとして両側の茂った緑樹の間からは蟬の声があふれ、いきいきと生の賛歌を奏でている。季節と共に移り変わる自然の装いのうちに生きる山村のは全体の前で話す必要がなく自分のペースで進めることができ、学習した文型を集中的に使用することができるので理解しやすく、授業に集中できるようにになった。(2)インタビュー活動では自分の力で相手から聞き出さなければならず、大勢の前で話すのではないから間違いを恐れなくて済むようになった。(3)活動にゲーム的な要素が入っているので授業に対する興味が継続できるようにになった。
- 課題としては次の点がある。(1)授業のはじめのあいさつは紋切り型にならないようにすること。(2)AETの活用仕方。(3)機械的なドリルは短かめにし、意味あるものをドリルしなければ定着しない。(4)場面設定を考え不自然にならないようにする。LLの活用
- 情景を三節は詠う。なお、作詩は斎藤史先生、町田等先生が作曲されている。校章は、周囲を山にかまれた中から、豊丘の風土と四季の移ろいに関係深い乳山、奈良山、奇妙山、離山の四つを配し、中央に豊丘の「豊」をあしらっている。
- 山とさわやかな空気と水、この自然のように美しく、かつ逞しく育てとの願いが校章にこめられている。校章は昭和三十八年に制定。校章は昭和四十六年、須坂市に合併の際改正された。(丸山武彦)

校歌・校章めぐり



豊丘小学校校歌

作詞 岸田幸弘
作曲 岸田幸弘

あしたの空に白銀の山は輝く
標高五九〇呎の学校から西を望めば
早朝の冬空に連なる北アルプスの峯々が朝陽に映えて雄大ななかに清澄な美しさを醸し出している

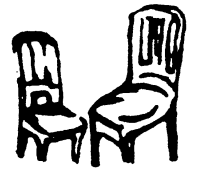
二節は川の流れを詠っている
学校の付近を流れる奈良川は激流でも溪谷でもないが
夏日炎熱の日などひっそりとして
両側の茂った緑樹の間からは蟬の声があふれ
いきいきと生の賛歌を奏でている

季節と共に移り変わる自然の装いのうちに生きる山村の

「あしたの空に白銀の山は輝く」と校歌の冒頭の言葉どおり、標高五九〇呎の学校から西を望めば、早朝の冬空に連なる北アルプスの峯々が朝陽に映えて雄大ななかに清澄な美しさを醸し出している。

二節は川の流れを詠っている。学校の付近を流れる奈良川は激流でも溪谷でもないが、夏日炎熱の日などひっそりとして両側の茂った緑樹の間からは蟬の声があふれ、いきいきと生の賛歌を奏でている。季節と共に移り変わる自然の装いのうちに生きる山村の

火ばら 談義



「地域を大切にしないさい。」
教員になりたての頃、よくそ
う言われた。近所づきあいを
ちゃんとすること、地域の行
事や集会にきちんと出ること
など、元来めんどくさがり
やの私としては、これがなか
なかつた。それで、それでも
暮らした時はだいたい大目に
見てもらっていたが、半人前

地域の中で

伊藤美紀

とはいえ、所帯を持つとな
るとそうもいかないらしい。今
年はとうとう組長などという
大役が回ってきてしまった。
借家住まいを始めてまだ2年
足らず、何も分からない状態
で、町内の人の名前さえ、ま
だ覚えられない。新年会を企
画し、回覧板を回し、不幸の
あったことを連絡してまわり、



ピラ配りをし、どうやら無事
に一ヶ月が過ぎた。仕事の内
容は大したことではないけれ
ども「やっと一ヶ月」という
感じである。しかし、一
ヶ月たってみて、近所の人た
ちの顔と名前が一致してくる
につれ、今まで何と近所づき
合いが浅かったのかと思わさ
れる。どうせ仮の住まいだか
ら、どうせ長くいるわけでは
ないから、そんな甘えが、や
はりどこかにあったのだろう。
出会いを大切に、などと生徒
に言えた義理ではない。

(常盤中)

アフタースクールの 子どもたち

山際正巳

「ふーたりはいーつも、
よーりそいあって……。」宿
題に教科書の朗読を録音させ
ることがある。朗読部分が終
わると同時に、子どもの歌声
が流れ始めた。「センセー聞
いてないよねー。」「やべ、
日記書くの忘れてた。」「今
は夜の八時五十八分。」「た
あでもない話の合間に、今はや
りのジュン・スカイウォーカ
ー(S)の歌やXの歌が入る。教
室では聞いたことのないよう
な澄んだ声で。そのうちノッ
クする音。録音が途切れる。

先日、新聞で見慣れない言
葉を目にした。
「わしも族……高度成長の
時代を通して仕事一筋に生き
いよいよ定年退職といった五
十代後半から六十代位のお父
様方を指しているのである。
どういう意味なのかというと、
奥さんが出掛けようとする
どこへでも「わしも行く」と
言っではいつて行くというの
である。ひとは「ぬれ落ち
葉」(べつたりくつついてな
かなか離れないものたとい
え)と言われ、またひと頃は
「粗大ゴミ」と言われ、最近
新しく「わしも族」という言
葉が生まれたようである。長
い間働き続けたお父さんの運
命としては、なんと悲しいこ
とだろう。無性に腹が立つ。
働き盛りのお父さんも一考
を要する時期が来ているよう

ちよつと一服

田中久美子

子どもたちが熱中するもの
こそ、真実なるものと言える
のかも知れない。(仁礼小)

をないがしろにする態度にも
問題があると思う。
我が家には幸いにして七人
という大家族であり、都会の
風からは程遠いとは思ふ。そ
れでも、この七人が、いつも
バランスよく、和やかな雰
気でいられるか否かは、私の
腕次第だと思っている。子供
は誰よりも私(母親)を慕い、
私の味方をしてくれる。だか
らこそ、私は親を大切に、
夫を尊敬し、三人の子供達を
平等にかわいがり、後ろ姿だ
けでも立派でありたいと思っ
ている。

編集後記

本年度最終号の上高井教育
会報136号は「本年度上高井教
育会の活動の総括」と「本年
度の実践をふり返って」をテ
ーマに編集しました。

本年度も会報の充実をめざ
してきましたが、よりよい会
報にするために、会員の皆様
方からもお気づきの点があり
ましたら、ご指摘していただ
けたらと思います。

最後に、お忙しいところを
心よく原稿をお寄せいただいた
先生方に、厚く御礼申し上げ
ます。(渡辺・中嶋)